
砂の惑星™*
DUNE™*



DUNE™*

THE MOTION PICTURE EVENT FOR 1984



A Place beyond your dreams.
A Movie beyond your imagination.

――Dune…そこは夢のかなたの場所、
Duneはあなたのイマジネーションの向こう側から語りかける――

EXPLANATION
解説

フランク・ハーバートのベストセラーSF「砂の惑星」は、1965年に初めて発表されて以来、幾度かの映画化が試みられてきた。1度目は「猿の惑星」のプロデューサー、アーサー・P・ジェイコブズによって、2度目は「エル・トポ」の監督アレクサンドロ・ジョドロフスキーによって、そして3度目はディノ・デ・ラウレンティスと「エイリアン」のリドリー・スコット監督のコンビによって。しかし、そのいずれもがプリ・プロダクションの段階で中止となり、「映画化は不可能」とまでいわれた。

しかし、ディノ・デ・ラウレンティスは、現代映画界の鬼才デビッド・リンチ監督との絶妙なコラボレーションによって、遂に映像化を実現した。「砂の惑星」はまさに、全世界のSFファン待望の作品であり、エポック・メーキングな作品になることは間違いない。

製作総指揮はハリウッド屈指の大物プロデューサー、ディノ・デ・ラウレンティスの娘で「キング・オブ・デストロイヤー」のラファエラ・デ・ラウレンティス。原作を一読して以来、9年越しで映画化に着手することができたという。監督はアカデミー賞8部門にノミネートされた「エレファント・マン」のデビッド・リンチ。初のアメリカ・メジャー作品であると同時に「エレファント・マン」以来4年振り、初の本格的ＳＦ作品として期待を集めている。

特殊技術効果は「レイダース／失われたアーク〈聖櫃〉」でアカデミー賞受賞のキット・ウエスト。特殊視覚効果は「遊星からの物体Ｘ」のアルバート・ホイットロック。個性的なクリーチャー〈生き物〉は「エイリアン」「E.T.」のクリエーターとしてアカデミー賞受賞のカルロ・ランバルディ。プロダション・デザインは「アラビアのロレンス」「2001年宇宙の旅」のトニー・マスターズと、現代SF界を代表する最高のスタッフが顔を揃えている。撮影にはリンチ監督が「信じられないほどリッチな映像」と絶賛した「エ







レファント・マン」の名手フレディ・フランシス、衣装デザインは「エクスカリバー」のボブ・リングウッドが担当している。

出演は、ポール役に舞台出身の新人カイル・マクラクラン、ポールの恋人チャニ役に「ブレードランナー」のショーン・ヤング。他に「ニジンスキー」のサイアン・フィリップス、「危険な年」のリンダ・ハント、「Uボート」のユルゲン・プレフノフ、ロック界のスーパー・スター「ポリス」のボーカリスト、スティング。そしてマックス・フォン・シドー、ホセ・フェラー、シルバーナ・マンガーノというベテランもまじえた豪華キャスト。

メキシコでのロケ準備におよそ半年、メキシコシティでの撮影にも約半年を費やし、七ヵ国から集まった1000人以上のクルー、15000人のエキストラが参加。製作費は5000万ドルといわれている。

いまだかつて、どんなＳＦにも登場しなかった未来世界、独自の文化や人々、生き物が、この「砂の惑星」にはつめこまれている。

SF映画の新しい伝説が、いま誕生した！

（8巻／3,748ｍ／上映時間2時間17分
1984年ユニバーサル映画　CIC配給）













THE PEOPLE OF DUNE
主要登場人物

◆ポール・アトレイデス
公爵（デューク）レト・アトレイデスとその公式妾妃レディ・ジェシカとの間に産まれた嫡子。

父レトがハルコネン家によって暗殺された後、母ジェシカとともに砂漠に身を隠す。フレーメン（砂漠の民）に迎えられた彼は、やがて香料メランジに触発され、大いなるビジョンを視るようになる。フレーメンは彼をモアディブと呼び〝リザン・アルーガイブ〟——世界の外からフレーメンのもとへと来る予言者ではないかと信じはじめる。彼こそは、ベネ・ゲセリットの繁殖計画によって産み出されたクイサッツ・ハデラッハ、ベネ・ゲセリットの予知できないものも視ることができる人間でもあった。そして今、彼は全フレーメンを手中におさめ、ハルコネン家への復讐を開始する。

◆レディ・ジェシカ
デューク・レト・アトレイデスの公式妾妃。ベネ・ゲセリット学校の卒業生。しかし彼女は、ベネ・ゲセリットの繁殖計画に逆らってデューク・レトに世継ぎの男子ポールを授けた。

レトの死後、彼女はポールとともに砂漠に逃がれ、フレーメンに迎えられる。フレーメンの宗教的儀式にセイヤディナ（フレーメンの宗教的階級制度における女性の新参者）として参加する。彼らの教母ラマロによって、彼女は意識スペクトラム麻薬を飲まされ、すべての教母の記憶を共有するようになる。彼女はフレーメンの教母となり、砂漠のなかに身を隠して、ハルコネン家の捜索から逃れ復讐の時期をうかがう。



◆レト・アトレイデス公爵
大公家たるアトレイデス家の当主。コリノ家とは母方の従弟。彼はしばしば、その赤い鷹の紋章からレッド・デュークと呼ばれる。アトレイデス家は総監封士として20世代のあいだカラダンを統治し、そのあとアラキスへの移住を強いられた。

大公家のあいだにおける彼の人気は高く、それゆえ大王皇帝は彼を遠ざけようとし、ハルコネンの陥穽がひそむ惑星アラキスを与えたともいえる。

彼に仕える者は皆、熱狂的な忠誠心を彼に捧げる。指揮官としての資質、部下を掌握する能力は息子ポールにも受け継がれている。

自己の死を予感しながら、彼は果敢に運命の惑星アラキスへと飛びこんでいった。

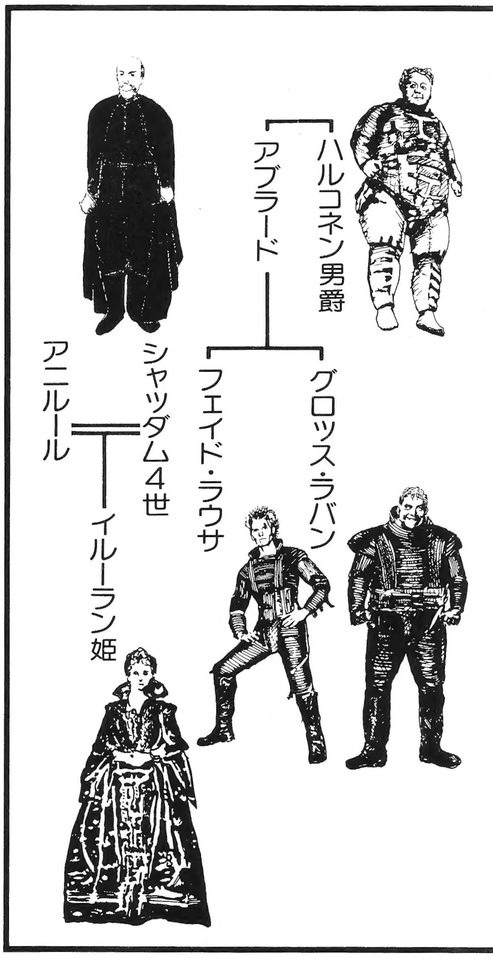
◆ハルコネン男爵
ウラディミール・ハルコネン。ハルコネン家の当主。アトレイデス公家とは宿敵の間柄である。砂の惑星アラキスを支配し、そこで産出されるメランジにより、莫大な富を築いた。大王皇帝の命を受け、アラキスをアトレイデス家に引き渡したが、それは公爵レトを亡き者にするための陰謀でもあった。

その性格は陰険にして、権謀術策を好み、苛虐趣味を有する。体重過多のため、常にサスペンサー（重力除去装置）を用いている。



◆フェイド・ラウサ・ハルコネン
ハルコネン男爵の甥。男爵のもっとも年下の弟アブラードの合法的な息子であり、グロッス・ラバンとは兄弟にあたる。男爵の家を継ぐ者として選ばれた時、ハルコネンの名前に変わった。

ポール・アトレイデスとはほぼ同年齢にあたり、ベネ・ゲセリットのクイサッツ・ハデラッハを産み出すための繁殖計画において、ポールの占める位置と対称をなすべき場所に存在する。ポールとは宿命のライバルである。



◆シャッダム4世
大王皇帝。その家系81代（コリノ家）にして黄金獅子帝位につく。広大な銀河帝国は、皇帝、宇宙協会、大公家の三者によって支配されていた。彼は、惑星アラキスをハルコネン家からアトレイデス公家に割譲するよう命じたが、宿敵の両家を争わさせることによって勢力を弱体化させ、自分が漁夫の利を得ようと画策していたのだった。

ベネ・ゲセリットの皇后アニルールとの間に皇女が5人、合法的な皇子はいない。

◆イルーラン姫
シャッダム4世大王皇帝の第一皇女。ベネ・ゲセリットの訓練を受けている。金髪、緑の瞳。尊大な物腰をした美女。自分の文学的才能に自信を持っている。

ポール・アトレイデスのタイム・ビジョンにしばしば登場する人物。アラキスの反乱におけるシャッダム4世とポールの対立図式の中で、鍵となる存在である。ベネ・ゲセリットにとっても、彼女はその繁殖計画になくてはならない位置にいる。

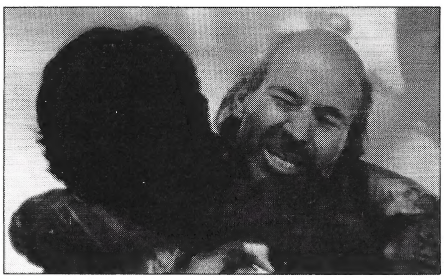


◆ドクター・ユエ・ウェリントン
アトレイデス公家の医師。その妻はベネ・ゲセリットのワンナ・マーカス。スク医学校の出身で、帝国式条件反射（人命を奪うことを妨げる最高の条件づけ）を受けている。
彼はハルコネン家がアトレイデス家に潜入させたスパイであるが、それは彼の妻ワンナがハルコネンの手に捕えられていることから、彼が引き受けねばならなかった危険な任務だった。ポールの幼年時代、彼は家庭教師としての役割も果たしていた。

◆スフィル・ハワト
アトレイデス公家のメンタート（人間コンピューター）。また、暗殺の名人でもある。彼は、先代公爵からポールまで、三代にわたってアトレイデス家に仕えた。公爵レト・アトレイデスの文字通りの片腕で、ポールの幼年時代における師であった。だが、ハルコネン家の陰謀により、ポールの母レディ・ジェシカを裏切り者ではないかと疑念を抱くようになる。その疑念が、彼のメンタートとしての能力をくもらせた。

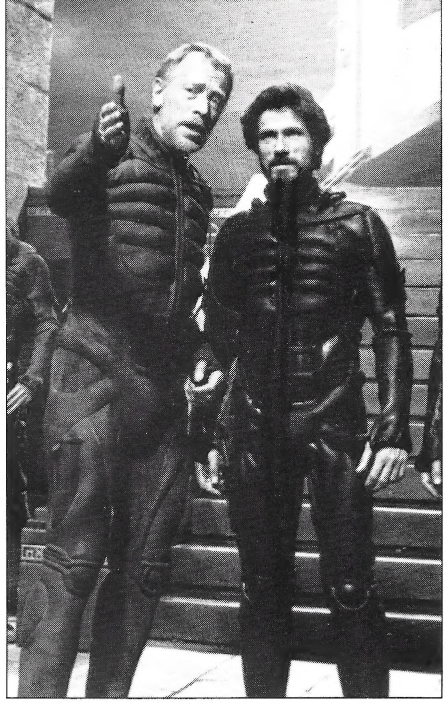
◆ガーニイ・ハレック
アトレイデス公家の副官。吟遊詩人、楽器バリセットの名手としても有名だが、剣をとっても素晴しい腕前を見せる。ジェディ・プライムにあるハルコネン家の奴隷収容所にいれられたことがあり、妹もそこで殺された。顔の傷はそのとき、ラバンにつけられたものである。それゆえ、ハルコネン家を憎む気持ちは人後に落ちない。ポールにバリセットの手ほどきをしたのは、他ならぬガーニイである。

◆ダンカン・アイダホ
アトレイデス公家の副官。剣をとっては並ぶ者なき腕前の持ち主。アトレイデス家の警備と偵察部隊の指揮者。
惑星アラキスのフレーメン調査のため砂漠に派遣され、フレーメンの族長スティルガーと親交を結ぶことになる。
アトレイデス家に対する忠誠心はきわめて高く、狂信的ともいえるほどである。惑星カラダンでは、ポールの武術師範をつとめ、彼にあらゆる剣技を教えた。



◆スティルガー
ダブル・シーチに居住するフレーメンの族長。フレーメンの例にもれず、勇猛果敢な性格。リエト・カインズ博士の壮大な惑星改造計画に、アラキスの未来の姿を見出し、一族をその方向に導いてゆく。
ポールとその母ジェシカが、ハルコネン家の手から逃れ、砂漠を彷徨していたとき、かれらを救出、シーチに迎え入れる。のちにポールの参謀格となり、聖戦の中心的軍事指導者ともなる。





◆リエト・カインズ
生態学者。帝国の移動審判官。父は、アラキスの初代惑星学者パードット・カインズ。母は、フレーメン女性。19歳のときには、すでに100人以上のハルコネンの手下を殺した一人前のフレーメン・サンドライダーであった。彼は父の遺志を継ぎ、砂の惑星アラキスを緑豊かな惑星へと改造するべく、フレーメンの力を結集して、その計画にあたらせている。まさしく、フレーメンにとって彼は惑星アラキスの未来をもたらす者であった。

◆チャニ・カインズ
リエト・カインズとフレーメン女性ファロウラとの間に産まれた娘。妖精のような顔に愛らしい肢体。だが、フレーメン女性の強靱さも兼ね備えている。
ダブル・シーチに迎えられたポールの世話をするうち、彼と恋に陥る。彼女は、惑星カラダンにポールがいたころから、その夢にたびたび現われていた。ポールにとって彼女はシハヤ（〝来るべき楽園〞を意味する宗教的なふくみのある砂漠の春）そのものである。

◆エイリア・アトレイデス
レト・アトレイデス公爵とその公式妾妃レディ・ジェシカとの間に産まれた娘。ポール・アトレイデスの妹にあたる。
彼女はその父レト・アトレイデスの死後、フレーメンのシーチで生まれた。胎内にいるときレディ・ジェシカが〝生命の水〞を変化させたため、彼女の意識は誕生の前に覚醒させられた。また、ベネ・ゲセリットの教母の記憶も同時に流入し、彼女を大人の記憶を持つ子供となさしめた。

THE STORY

物語

人類が恒星間帝国を築きあげた遙かな未来。人類文明は、大王皇帝、恒星間輸送を独占する宇宙協会、そして惑星領土をもつ大公家連合の三勢力の下に維持されていた。

皇帝シャッダム四世は、従弟にあたる公爵レト・アトレイデスに砂丘（デューン）として知られる砂漠の惑星アラキスを新たな封土として与えた。アラキスは、不老不死の薬として使われる中毒性のある薬物メランジの、唯一の産出星であり、そこを支配する者に莫大な富をもたらす惑星であった。しかし皇帝は、密かにアトレイデス家の仇敵ハルコネン家と結びつき、大公家の間で人気のあるレトを失脚させようと狙っていたのだ。

アラキスに着いたアトレイデス公爵家を待っていたのは、信頼していた医師ユエ・ウエリントンの裏切りと、ハルコネン家が皇帝より借り受けた怖るべきサルダウカー軍団による襲撃だった。混乱のうちに、ウラディミール・ハルコネン男爵にとらわれた公爵は自害し、その息子ポールと、公爵の妾妃でポールの母親、宗教結社ベネ・ゲセリットの一員でもあるジェシカは、かろうじて広大な砂漠へとのがれた。

公爵の副官ダンカン・アイダホと惑星生態学者リエト・カインズの死を賭した献身によって追手をふりきった２人は、惑星アラキスの原住民であるフレーメンの集団にまぎれこむ。砂の惑星の苛酷な自然環境の中で生き抜いてきた〝砂漠の民〟フレーメンは、皇帝のサルダウカー軍団に匹敵すべき驚くべき戦闘能力を持っていた。この力を結集すれば、再びアラキスを支配するようになったハルコネン家打倒も夢ではない。積極的にフレーメンの一員となるべく努めたポールは、やがてフレーメンの宗教的儀式にしたがって、ある種の薬物を飲むテストを受けた。この〝生命の水〟によって、彼の意識はとぎすまされ、未来を透視する能力が備わった。かつて、ベネ・ゲセリットが、世界の外から救世主がやってくるという伝説は、ついに本物となった。ポールこそ、ベネ・ゲセリットが待ち望んでいた〝クイサッツ・ハデラッハ〟女系で伝えられるベネ・ゲセリットの教母たちの記憶に加えて、彼女たちでは持つことのできない男性側の記憶もあわせ持つ男性版ベネ・ゲセリットであった。

砂漠に住む巨大な砂虫を駆使する術をおぼえ、フレーメン女性で、リエト・カインズの娘であるチャニを配偶者としたポールは、フレーメンから〝モアディブ〟という尊称を得、名実ともにその指導者となり、皇帝とハルコネン男爵がひきいるサルダウカー軍団に最後の戦いを挑むべく立ち上った。



は、砂漠において生きのびるその能力のために、フレーメンに尊敬されている。のちにポール・アトレイデスの通称となった。

【メランジ】
アラキスのみで産出される香料。この香料は主として不老不死の薬として知られる。少量をとるときには弱い習慣性があり、体重70キロあたり2グラム以上の量を吸収するときは強い習慣性がある。

【メンタート】
最高の論理計算ができるように訓練された帝国市民の階級。人間コンピューターのこと。

【モニター】
重装備とシールド防御を積み、10個の部分からなる宇宙戦闘艦。

【ラス・ガン】
連続波レイザー放射器。力場発生機防御による対象には、その兵器としての使用が制限される。そのビームがシールドとぶつかるとき作りだされる高熱爆発のためである。

【教母(リヴァレンド・マザー)】
自らの体内にある〝啓発する毒物〟を変えることによって、過去のすべての教母の記憶を持つことになったベネ・ゲセリットの学生監のこと。この名称は、フレーメンの中で同様の〝啓発〟を達成したかれらの信仰的指導者にもあてはめられる。

【リザン・アルーガイブ】
フレーメンの救世主伝説にある、世界の外から来る予言者。かれらを楽園へと導いてくれる者。砂漠へとのがれ、フレーメンに受け入れられたポールはやがてかれらからこうよばれるようになる。

【リトル・メイカー】
アラキスの砂虫に寄生する半植物半動物の生命体のこと。このリトル・メイカーの排泄物が、スパイスのもとになる前香料マッスを形成する。

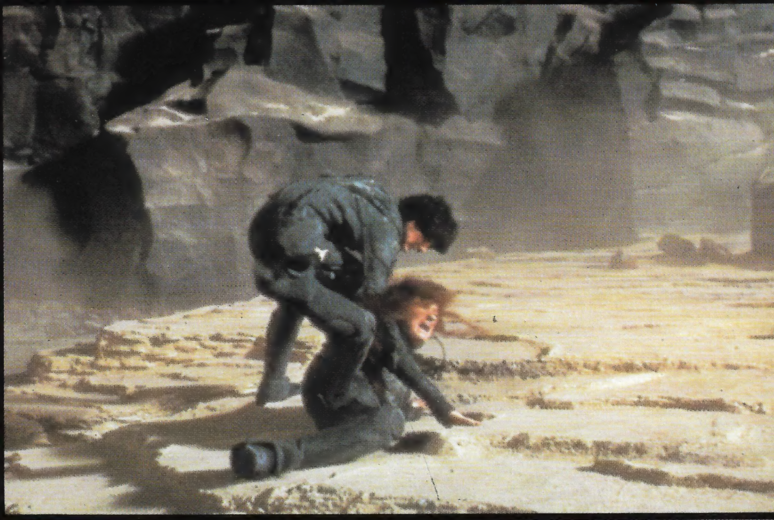
【残留毒(レジデュアル・ポイズン)】
メンタートのパイター・ド・ブリースが考案したもので、肉体にある物質を入れ、それに対する解毒剤をくりかえし与えねばならないもの。いつであろうと、その解毒剤の投与をやめると死を招来する。ハルコネン男爵の奸計によってこの毒を飲まされてしまう。













DUNE主要用語

【アラキス】
砂丘（デューン）として知られる惑星、カノープスの第3惑星。

【クイサッツ・ハデラッハ】
ベネ・ゲセリットたちが独自の繁殖計画によって産みだそうとしている超人のこと。精神力を用いて空間と時間のあいだに橋をかけることで未来を予知するナビゲーターの能力と人間コンピューターであるメンタートの能力をあわせ持つ男性。

【クリスナイフ】
死んだ砂虫（サンド・ウオーム）の歯から作られる、フレーメンの聖なるナイフ。

【ゴム・ジャバール】
ベネ・ゲセリットの学生監が、生徒の成熟度をテストするために使うもので、メタ・シアン化物を先端につけた特殊な毒針。

【サルダウカー】
大王皇帝直属の狂信的戦士。11歳に達するまでに13人中6人を殺すという凶暴な環境で育てられたかれらは、帝国における最強の兵士といわれている。かれらは、ふつうのランドスラード徴幕兵の10名に匹敵した。

【スティルスーツ】
アラキスで発明された肉体を包みこむ衣服。熱を分散し、肉体が発散するあらゆる水分を回収できるように作られている。砂の惑星の苛酷な自然環境の中で生活するには、このスーツが絶対に必要である。

【CHOAM（チョアム）】
協会とベネ・ゲセリットをかげの協力者とし、皇帝と大公家によって操作されている宇宙開発公社。

【公家（ハウス）】
ひとつの惑星、もしくは恒星系を統治する一族の通称。

【ベネ・ゲセリット】
ブトレリアン・ジハドがいわゆる〝思考機械〟とロボットを破壊したあと、主として女子学生のために作られた学校。

【モアディブ】
アラキスに適応したカンガルー鼠。この生物

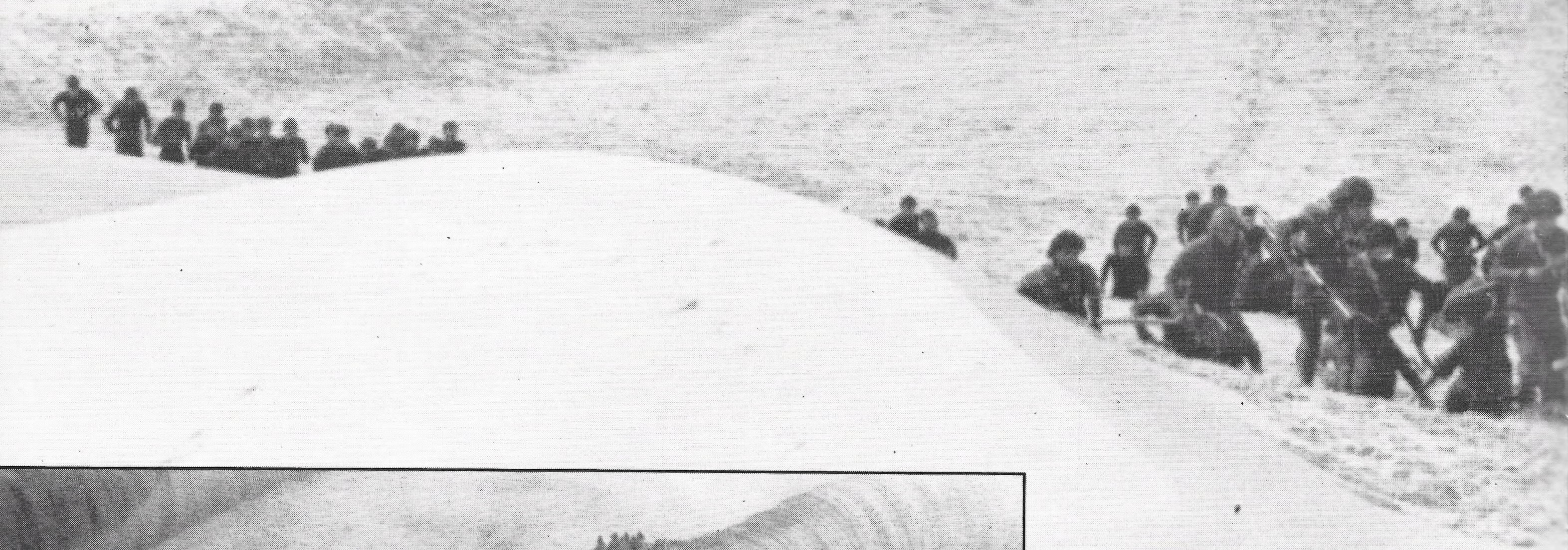
映画「砂の惑星」を生み出した限りなき想像力(イマジネーション)

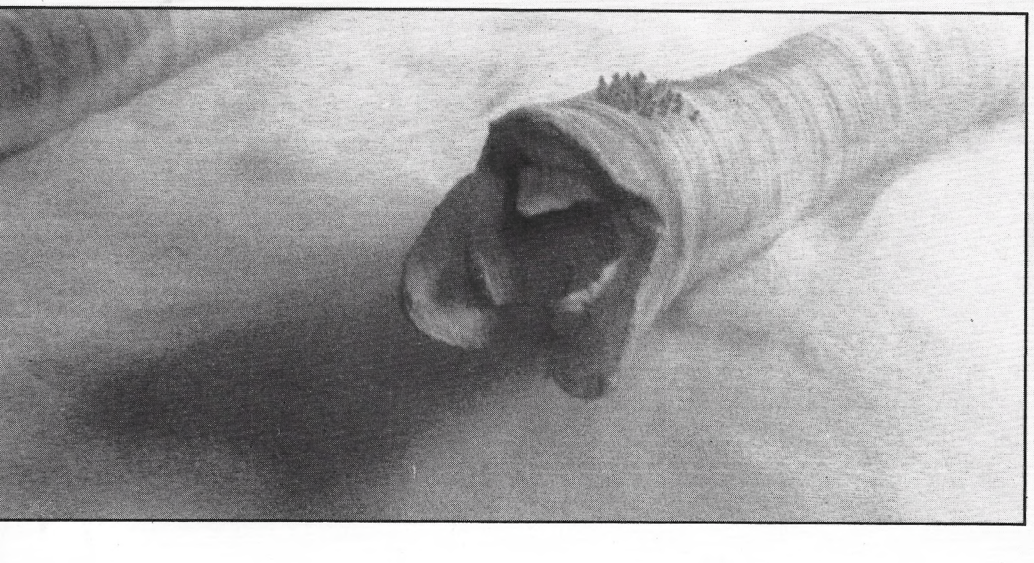
文/中野一也

かつて私たちが「2001年宇宙の旅」で圧倒された光の洪水と宇宙空間の明暗の美しさ、「スター・ウォーズ」で興奮したメカニックのスピード感とセットデザインの大胆な明るさ、「アラビアのロレンス」で感動した澄みきった空の青さと砂漠の清潔感——こういった感覚は映画「砂の惑星」には皆無といっていいほど存在しない。逆に、美的感覚よりも無気味さが、スピード感よりも重量感が、明るさや清潔感よりも暗く醜悪なものが、より強調されて描かれている。靄(もや)のかかったような宇宙空間の星々は鈍く輝き、登場する宇宙船メカの動きは鈍重で、ほとんどが錆びた重金属の塊のように静止している。室内の装飾は中世ヨーロッパの暗黒時代を思わせ、砂の惑星アラキスの空には色彩が感じられず、砂漠の空気は乾燥しきっているにもかかわらず、どんよりと濁っている。「2001年宇宙の旅」や「アラビアのロレンス」の製作デザインを担当したトニー・マスターズが、その2作品とは全く逆の感性でこの映画のデザインに従事したのは、やはり、あの悪夢のような映画「イレイザー・ヘッド」で注目を浴びたデビッド・リンチ監督の注文によるものであろうか。

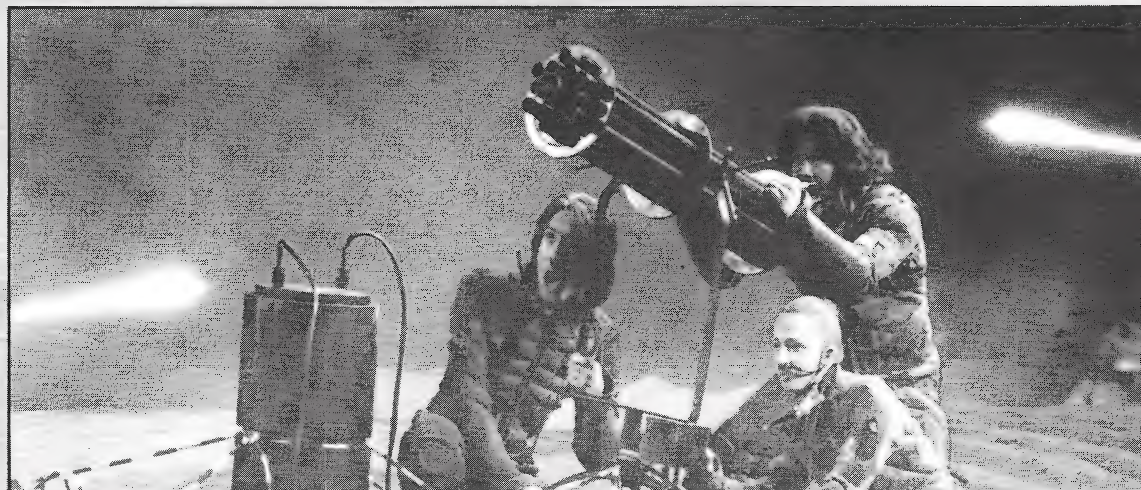
この映画で、私たちがデビッド・リンチ監督に対して抱くもっとも大きな驚きのひとつは、彼の商業映画としての監督歴が「エレファント・マン」というたった1本の作品しかないにもかかわらず、2作目にして製作費5000万ドルという超大作の演出・脚本を依頼され、尚且つその大役をみごとにこなしてしまったという点であろう。1978年にミッドナイトシネマで公開された彼の長篇第一作「イレイザー・ヘッド」は3年間の超ロング・ランとなり、2作目の、メジャー映画としては初めての「エレファント・マン」は、早くもアカデミー監督賞をはじめ8部門にノミネートされた。1980年、もっとも注目される映画作家として華々しいデビューを飾った男、デビッド・リンチに、世界的大プロデューサー、ラウレンティスが目をつけたのは当然といえば当然かも知れない。しかし、「エレファント・マン」で快挙を成し遂げた男——単にそれだけの理由で彼がこの超大作の監督に起用されたとは思えない。やはり、長篇短篇を含めて彼の数少ない作品の中に、監督として、あるいは映像クリエーターとしての確かな力量と特異な才能を、プロデューサーが見い出していたということは言うまでもない。

私たちがデビッド・リンチ監督の演出で驚かされるのは、どこまでも正面きっ





た正攻法の映像づくりであるにもかかわらず、映像そのものがかもし出すグロテスクで不気味な迫力である。演出そのものはまじめで、何ひとつ奇をてらったところがない。しかしながら、画面に蠢く人物、物体、風景、その他様々な要素の組合せを、私たちの想像力を超えた驚くべきイマジネーションと音響を駆使して、あるときは神秘的に、またあるときはすさまじい悪趣味をもって描き、過去、現在、未来の残忍で悪夢のような異次元的世界を、スクリーンに展開させる。「イレイザー・ヘッド」「エレファント・マン」そしてこの「砂の惑星」と、それぞれ内容も製作の規模も全く異質な3作品に、監督の感性、あるいは趣味という視点から共通項を見い出すのはむずかしいことではない。凡庸なヒューマニズムと陳腐な美的センスの徹底した拒絶、全編に持続するフィルム・ノワール(暗黒映画)のような暗さと緊張感、内攻的な人間がかかえ持つ魂の純粋さを刻み込んだ映像と音響、ストーリーを語るだけでなく、その筋書きを越えることこそ映画本来の姿だと考える演出の基本姿勢、そして何よりも、SF作品に限らずあらゆるドラマの映像化において、人間のイマジネーションの無限性というものが、彼の作品が発表されるたびにより強くより明確に示されるのである。映画「砂の惑星」の登場は、その無限性の新たなる証明であり、スクリーンを揺さぶる限りない想像力の嵐に、私たち観客の魂までもが、大きく揺れ動くのである。





DUNE™*

DUNE™*
MECHANICS



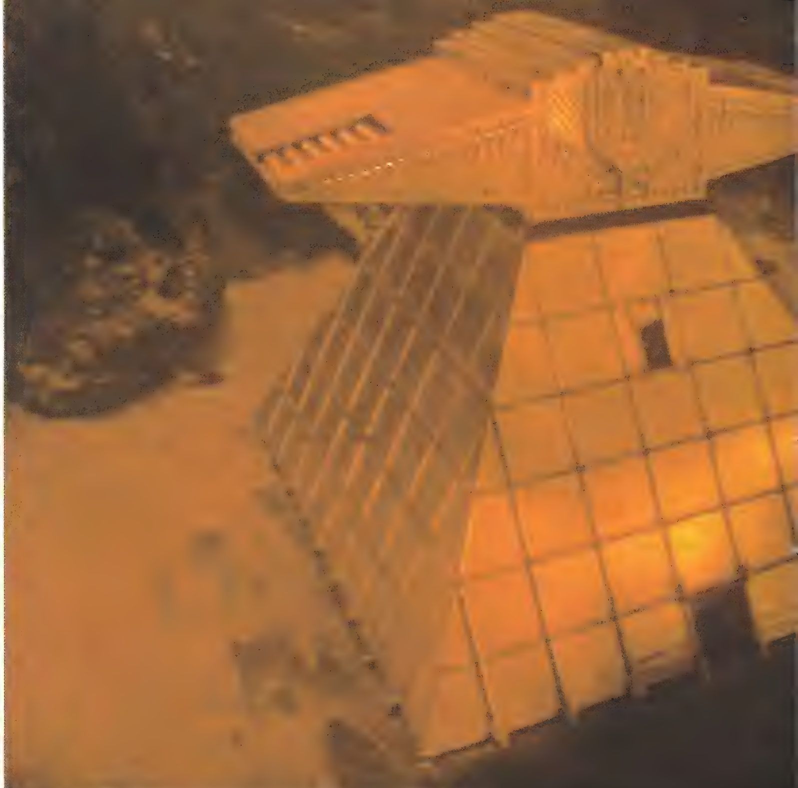
●トレーニング・ロボット　アトレイデス家の戦士を訓練するロボット。デザインは、トニー・マスターズ。製作とオペレーションは、特殊技術効果のキット・ウェスト。



●オーニソプター　鳥のような格好をした飛行機。原作では、翼をはばたかせて飛ぶが、映画では、翼の部分がスライドする。　（通称ソプター）



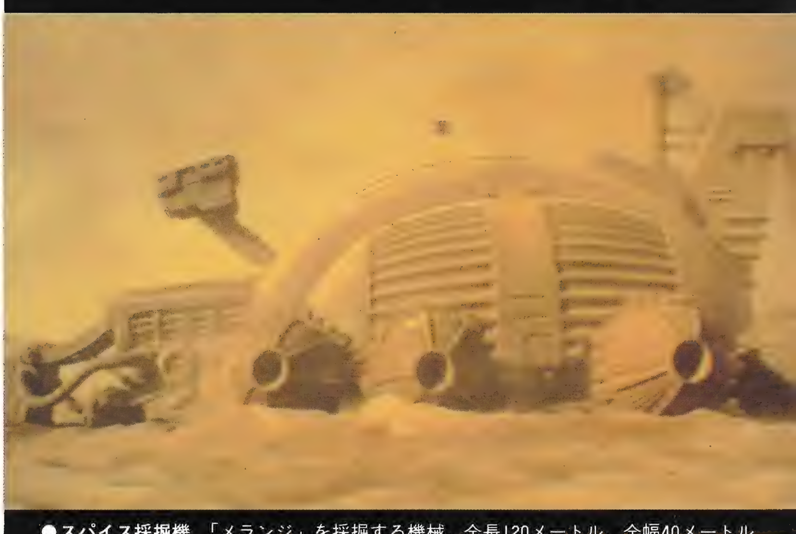
●シールド　ホルツマン発生機によって得られる保護フィールド。シールドは急速な攻撃ははねかえすが、遅い速度で移動する物体にのみ侵入を許す。



●シャッダム皇帝機　金色に輝く機体、直線的なデザインはいかにも大王皇帝にふさわし
惑星にやって来る。



●サンド・ウォーム　砂を食べ、新陳代謝させている。真っ赤に熱した口から熱を放つ
ル以上。



●スパイス採掘機　「メランジ」を採掘する機械。全長120メートル、全幅40メートルの巨大な車体をそれぞれ独立した動きをする車輪で移動させる。



い。フレーメン鎮圧のため砂の



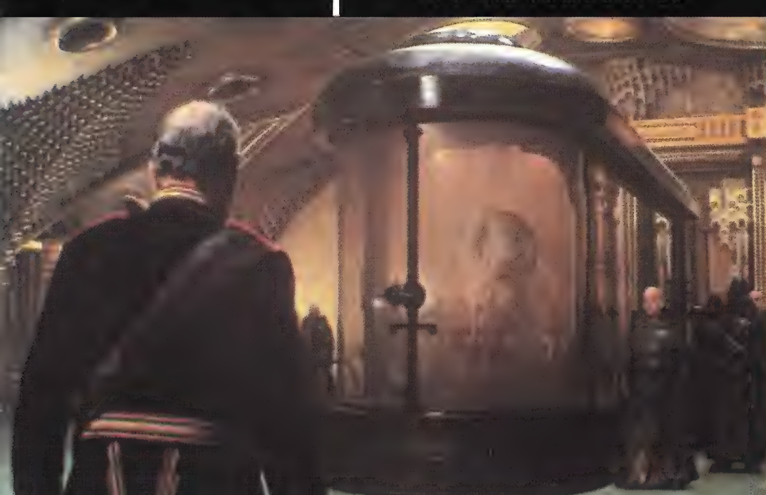
●**アトレイデス宇宙船**　ハルコネンの粗削りなデザインに比べて、なめらかで、エレガントなデザインだ。イラストレーターのロン・ミラーは、有名な宝飾卵「ファベルジェ・エッグ」からヒントを得たという。



巨大なものは、全長400メート



●**ハルコネン宇宙船**　ハルコネンの宇宙船は、原始的かつ実用的に作られているので、デザイン的なことは一切考えられておらず、ボイラーのような形をしている。



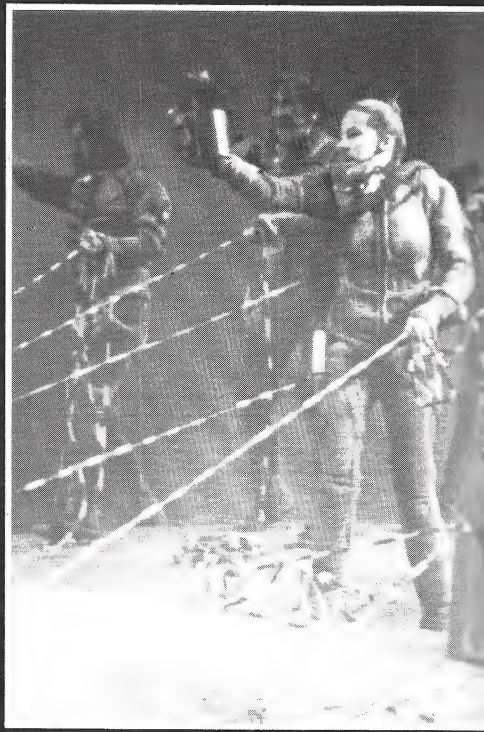
●**ギルド・ナビゲーター**　かつては人間だったが、大量のメランジを服用したため巨大化、奇形化した。超高速の宇宙旅行に必要な予知能力をメランジによって備えている。



●**ポータブル・サスペンサー**　超小型の反重力装置。200標準キロもあるウラディミール・ハルコネンの体重を支えるのに使用されているもの。

SF映画の新しい伝説が、いま誕生した！

SF研究家　**よしだまさし**



今から12年前、世界中のＳＦファンを熱狂させたＳＦ小説が日本でも翻訳出版された。「砂の惑星」――世界中で最も権威のあるＳＦ賞、〝ヒューゴー賞〟と〝ネビュラ賞〟を同時に受賞し、プロとアマの双方から年間の最優秀のＳＦ作品であると認められた折り紙つきの傑作(〝ヒューゴー賞〟は世界ＳＦ大会においてファン投票によって選ばれ、〝ネビュラ賞〟はアメリカＳＦ作家協会員の投票によって選ばれる)。

この作品は日本でも熱狂的に受け入れられ、当時のＳＦファンの間に一種のブームのようなものをまきおこした。SFの概念そのものが今日ほど拡散していない時期であったせいもあろうが、この作品を読んでいなければ、SFファンの間で話をすることさえかなわぬという事態すらひきおこしたくらいである。それまでは「21世紀潜水艦」という作品のみで一部のSFファンに名前を知られていたにすぎないフランク・ハーバートの名も、この作品によって一気に知れ渡った。

その「砂の惑星」が、ようやく映画化された。

まさに〝ようやく〟という感じがする。なにしろ、この作品の映画化の話は15年前にまで溯ることができるのだから。この15年の間、何度となく「砂の惑星」映画化の噂が日本にまで伝わってきた。そのたびに我々SFファンは期待に胸をふくらませたものだが、毎回、企画段階で話がつぶれてしまい、ガッカリさせられた。それゆえに今回の映画化は、15年の間、世界中が待ちに待った、まさに待望の映画化だったわけである。

それにしても、どうしてこうまで映画化が遅れたのか。昨年話題になった「ライト・スタッフ」にしても、今年の「2010年」にしても、原作が評判になってから映画化まで、それほど時間がかかっているわけではない。それなら、なぜ「砂の惑星」に限って15年間もかかってしまったのだろう。技術的には「スター・ウォーズ」以前の特撮技術でも充分に製作可能な内容のはずである。それなら、なぜ？

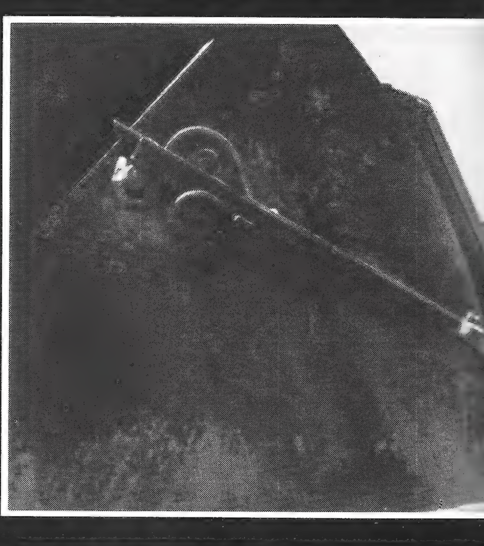


おそらく、シナリオ化の作業が難航をきわめ、そのために映画化が遅れたのであろう。なにしろ、原作は文庫本で４巻に渡る長大な物語である。それを２時間前後のシナリオにまとめるだけでもなみたいていではなかろうに、その上、原作の持つ複雑な構造がシナリオ化をさらに困難にしている。

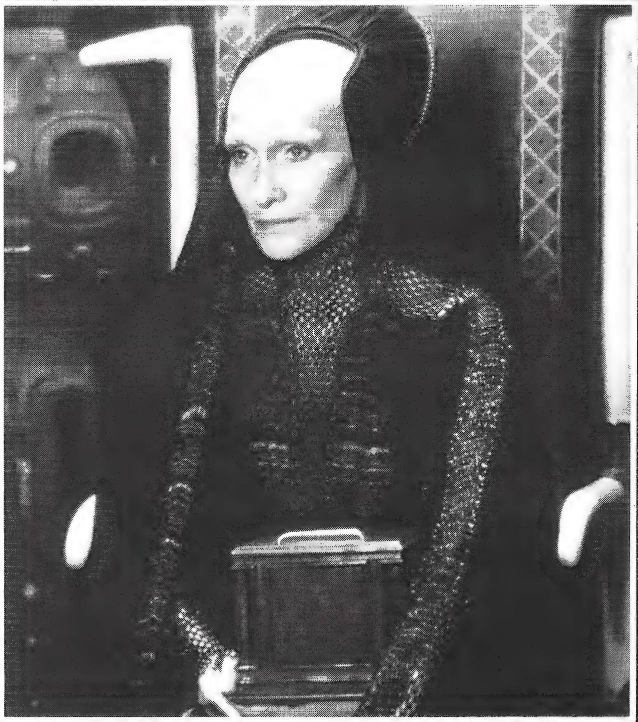
そう、既に映画をご覧になった方はおわかりだろうが、「砂の惑星」は決して「スター・ウォーズ」のような単純(ストレート)な冒険SFではない。さまざまな捉え方の可能な複雑な重層構造を持った作品なのである。

例えば、この作品を、砂と岩に覆われた渇ききった惑星における生態学(エコロジー)をテーマとしたSFと捉えることができる。

果たして、水分の極端に不足した惑星







において、いかなる生命形態が存在しうるのであろうか？あるいは、人間はどのようにして生きていけるのであろうか？作者のフランク・ハーバートはそうした問題に対して、当時としては最先端の科学であった生態学の考え方をいち早くこの作品に取り込み、砂虫（サンドウォーム）、リトル・メイカー、メランジ、フレーメンといった〝砂の惑星〟における生態系を創造していったのである。

また、この作品を、権謀術数入り乱れる中世風の宮庭劇と捉えることもできる。

アトレイデス家の滅亡を狙うハルコネン家と大王皇帝シャッダム四世。罠と知りつつ砂漠の惑星アラキスへ向かうレト・アトレイデス、その両者の対立を核として、宗教結社ベネ・ゲセリット、ハルコネン家に愛する妻を奪われたドクター・ユエ、アラキスに産出するメランジに活動を依存している宇宙協会（スペーシング・ギルド）、それぞれの思惑が惑星アラキスを舞台にもつれあう。罠の中の罠、陰謀の中の陰謀、権謀術数入り乱れる中世風世界、それをテーマにした作品と捉えることもできるのだ。





あるいは、ポール・アトレイデスという救世主（メサイア）の物語であると捉えることもできる。

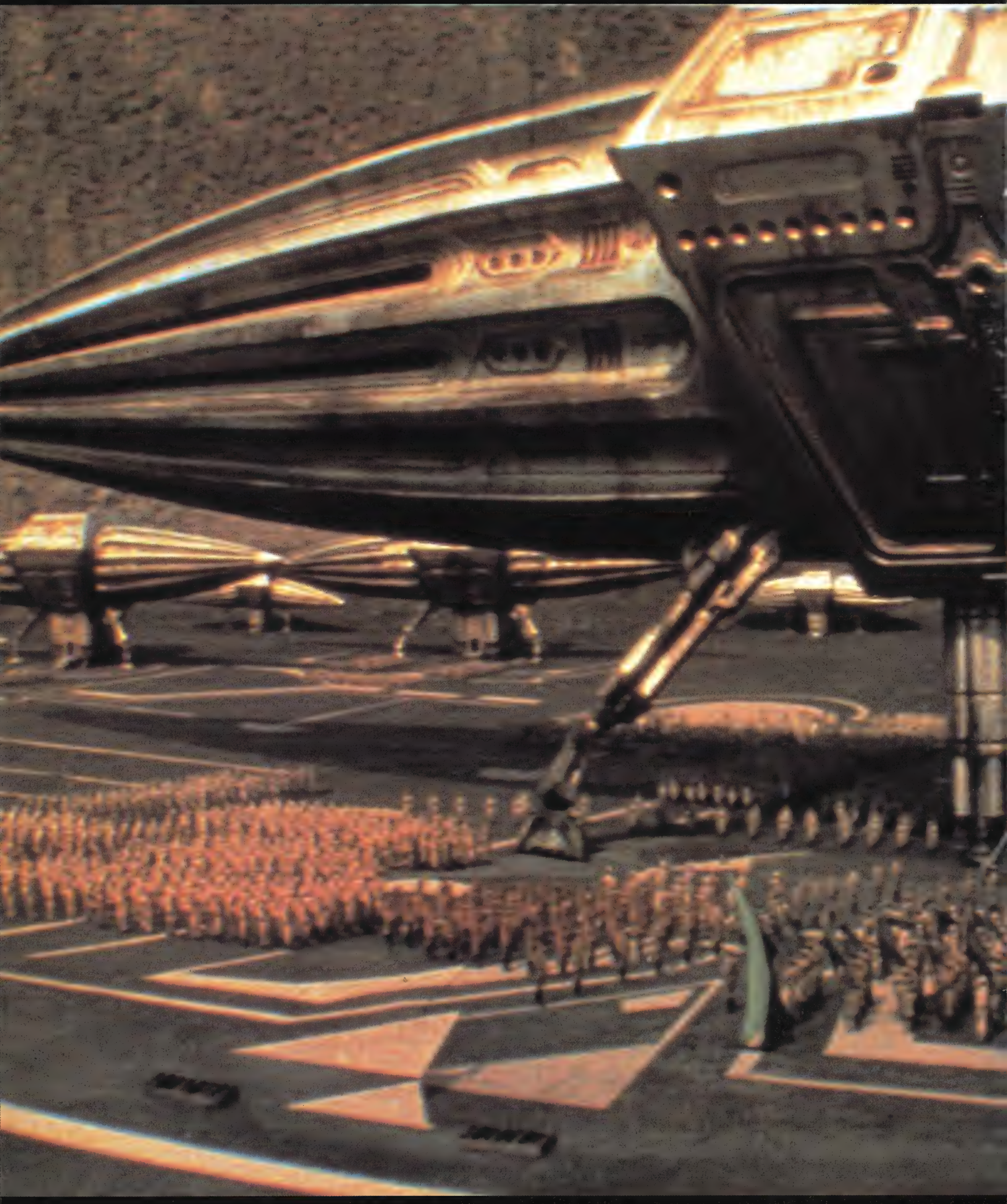
ベネ・ゲセリットという宗教結社が秘かに遺伝操作を行なっていたアトレイデス家とハルコネン家の結晶として誕生したポールが、メランジと生命の水によってクイサッツ・ハデラッハ—時間と空間に橋をかける者—へと成長していく過程を描いた物語であると捉えることもできるのだ。

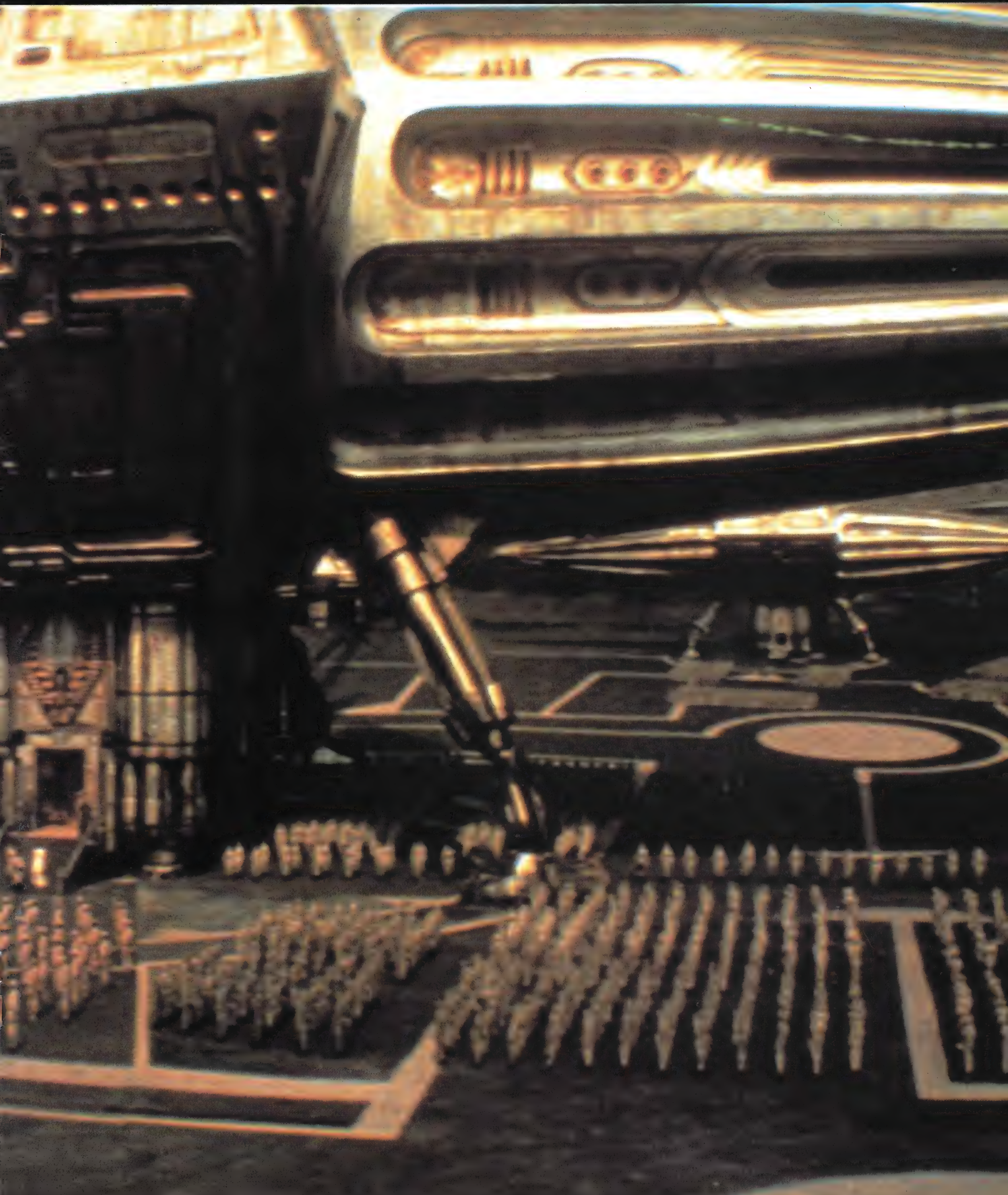
このように「砂の惑星」はいくつもの重層構造を持ち、しかもそれぞれが複雑にからみあい、有機的に結合して織りあげられた壮大なる一大叙事詩なのである。ある意味において、これほど映画化の難しいSF小説もあるまい。シナリオ化が難航し、いくつかの企画がつぶれたのも、当然のことであると言えよう。

しかし、デビッド・リンチはこの複雑な原作を実に見事にシナリオ化し、映像化している。まず、これ以上の出来は望めまい。ほとんど完璧と言ってもいいだろう。

物語は「砂漠の救世主」「砂漠の子供たち」「砂漠の神皇帝」「砂漠の異端者」とさらに続き、第六部も執筆中であるという。その第二部「砂漠の救世主」のシナリオ化が、デビッド・リンチの手によって現在行なわれているという。次にはどのような映像を見せてくれるのだろうか。今から楽しみでならない。

ポールの物語は、まだ続くのである。





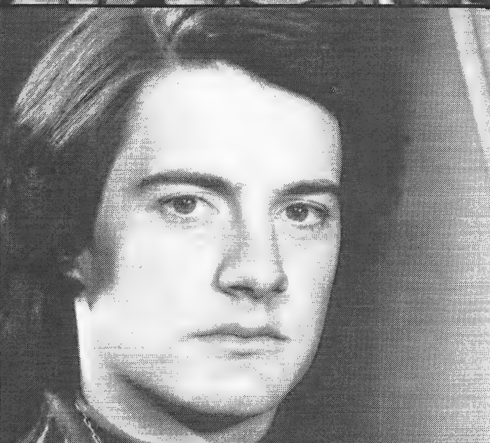
DUNE™*

THE MOTION PICTURE EVENT FOR 1984





CA



★カイル・マクラクラン

（ポール・アトレイデス）

1959年ワシントン生まれ。ワシントン大学で俳優訓練講座に学んだ。その後、オレゴン・シェークスピア・フェスティバルに参加し、「ロミオとジュリエット」「ジュリアス・シーザー」「ヘンリー４世」などに出演。

KYLE MACLACHLAN





★フランセスカ・アニス

（ジェシカ）

ロンドン生まれ。映画、舞台、ＴＶで活躍中。ロンドン・ロイヤル・シェークスピア劇団で「ロミオとジュリエット」、TVでは「ボバリー夫人」などに出演。「クレオパトラ」で映画デビューした。最近では「銀河伝説クルール」に出演している。

FRANCESCA ANNIS





★ユルゲン・プレフノフ

（レト・アトレイデス公爵）

1941年ベルリン生まれ。1963年から66年までの３年間、エッセンのフォークバング学校でドラマを学ぶ。その後、舞台、ＴＶに出演、“ZOFF”で映画デビュー。アカデミー賞の最優秀作品賞にもノミネートされた大ヒット作「Uボート」で一躍注目を浴びる。

JURGEN PROCHNOW



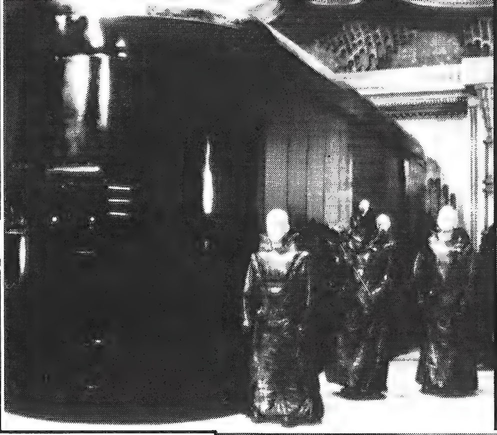






S T

キャスト

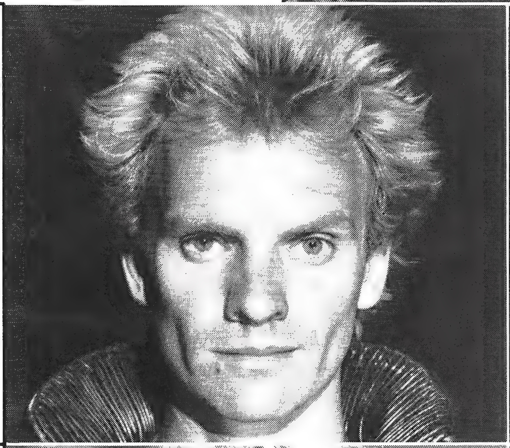




★ショーン・ヤング

（チャニ）

ケンタッキー州、ルイビル生まれ。オハイオで育ちミシガンのインターラーケン・アートアカデミーに入った。映画デビューは「ジェーン・オースティン・イン・マンハッタン」その他に「ストライプス」「ブレードランナー」「病院狂時代」等。



★スティング

（フェイド）

イギリスを代表するロックバンド「ポリス」のリード・ボーカル。「さらば青春の光」で映画デビューし、今回が3本目。アルバム「シンクロニシティ」はグラミー賞4部門を受賞。次回の映画出演は「フラッシュ・ダンス」のジェニファー・ビルールスと共演の"THE BRIDE"。

★マックス・フォン・シドー

（ドクター・カインズ）

1929年、スウェーデン・ルント生まれ。映画デビューは'49年の「オンリー・ア・マザー」その後、イングマール・ベルイマン監督とのコンビで数々の名作を発表。近年はアメリカ映画の娯楽大作に欠かせぬ存在になっている。主な作品には「野いちご」「処女の泉」「偉大な生涯の物語」「エクソシスト」「ハリケーン」「フラッシュ・ゴードン」等。



★ケネス・マクミラン

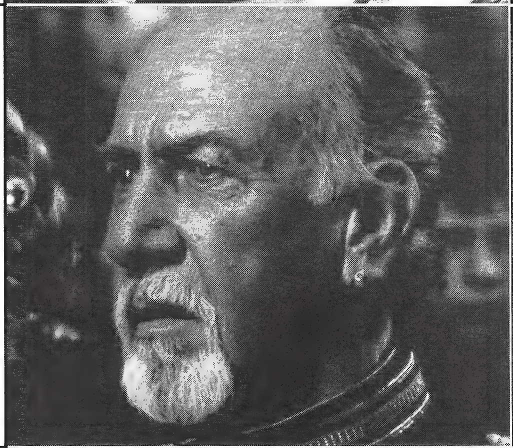
（ハルコネン男爵）

ブルックリン生まれ。ニューヨークの演劇学校出身。舞台は「ボースタイル・ボーイ」「ストリーマーズ」「ヘンリー4世パートⅠ」映画は「セルピコ」「この命誰のもの」「告白」等。

★リチャード・ジョーダン

（ダンカン・アイダホ）

ニューヨーク市生まれ。ブロードウェイ舞台「ロミオとジュリエット」でいきなり主役でデビュー。その後舞台で若手性格俳優として大器ぶりを発揮、映画は71年「追撃のバラード」でデビュー。「ザ・ヤクザ」「2300年未来への旅」「インテリア」「レイズ・ザ・タイタニック」など。ほか、TV・舞台出演多数。



★ホセ・フェラー

（シャッダム4世大王皇帝）

プエルトリコ生まれ。1948年映画デビュー作品「ジャンヌ・ダーク」でアカデミー助演男優賞にノミネート。50年「シラノ・ド・ベルジュラック」で同主演男優賞を受賞。製作・監督・脚本もこなす才人であり、舞台でも、"STALAG17" "THE FOURPOSTER" なども演出し、トニー賞を受賞している。







砂の惑星™



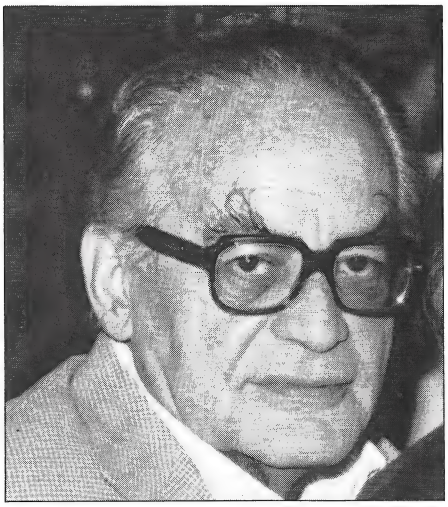









STAFF スタッフ



★ディノ・デ・ラウレンティス
〈提供〉

1919年8月8日イタリア生まれ。

1948年「にがい米」のプロデュースで国際的に注目されはじめた。50年初め、カルロ・ポンティと共同プロデュースした、アカデミー賞作品、フェリーニ監督による「道」('54)と「カビリアの夜」('56)の他、「戦争と平和」('56)「Fine Brande Wome」('59)「バイブル」('66)「バーバレラ」('68)「バラキ」('72)「セルピコ」('73)「Death Wish」('74)「コンドル」('75)「キングコング」('76)「ハリケーン」('79)「Brnho of Job」「キング・オブ・ジプシー」('79)「フラッシュ・ゴードン」('81)「ラグタイム」('82)「コナン」('82)等がある。

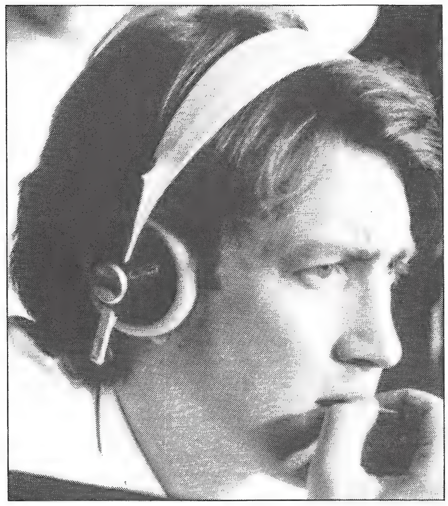


★ラファエラ・デ・ラウレンティス
〈製作〉

プロデューサー、ディノ・デ・ラウレンティスと、彼の夫人で女優でもあるシルバーナ・マンガーノとの間に生まれた娘。

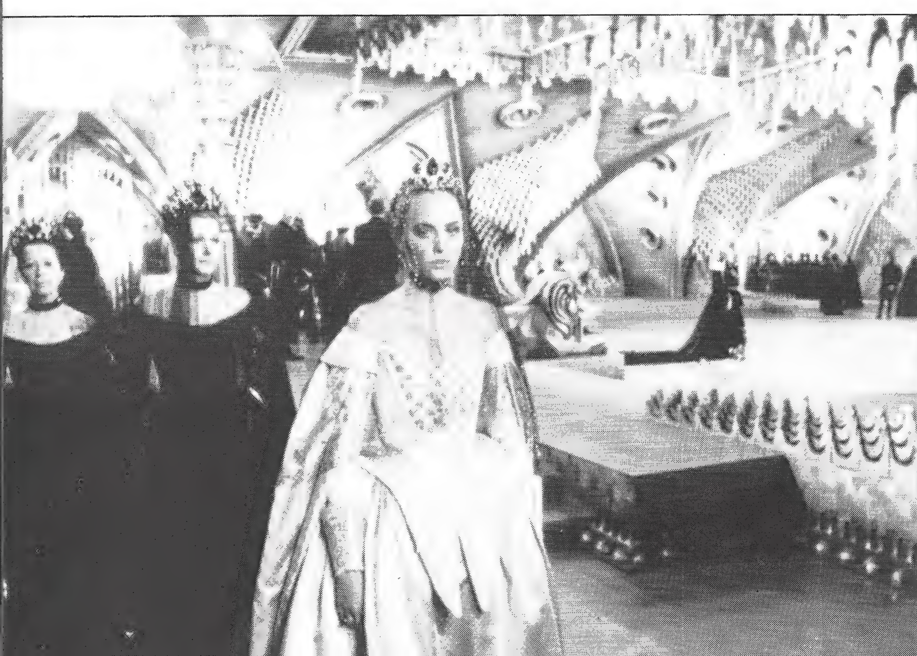
イタリアで教育を受け、15才の時から小道具係、衣裳係のアシスタントとして映画の仕事を始める。1975年、彼女はボラボラ島に移り、そこで2年間を「ハリケーン」製作のために過ごした。

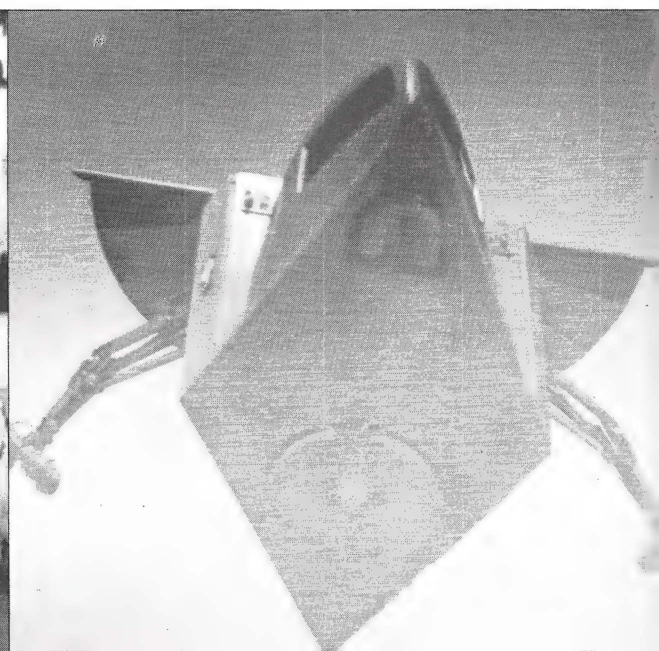
プロデューサーとしてのデビューは「少年と鮫」('81)。その後「キング・オブ・デストロイヤー」('84)をプロデュース。「砂の惑星」は3本目の作品であり、9年前に原作を読んで以来の念願の作品。彼女はボラボラ島に出発する前、父親のディノのデスクにこうメモを書き残した。「私がいない2年の間、私を抜きにして『砂の惑星』を作らないで」と。



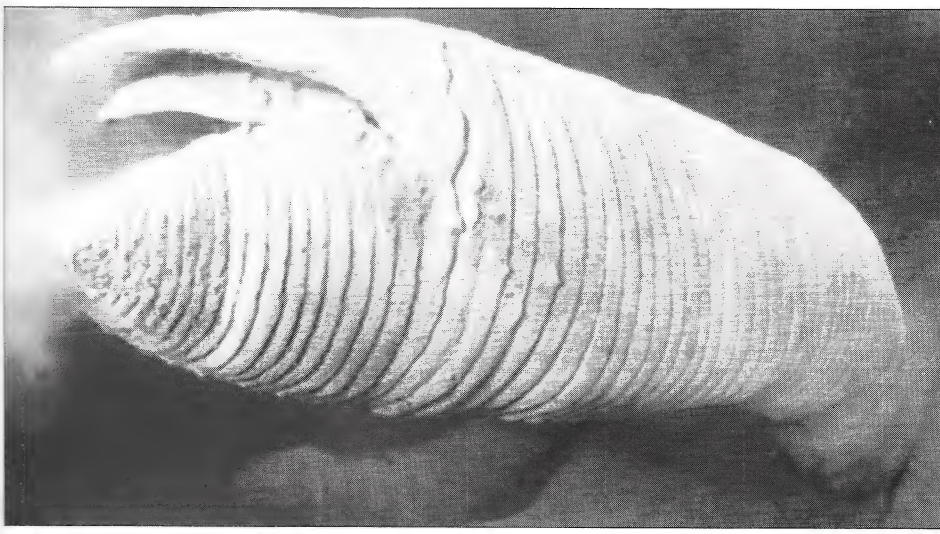
★デビッド・リンチ
〈監督〉

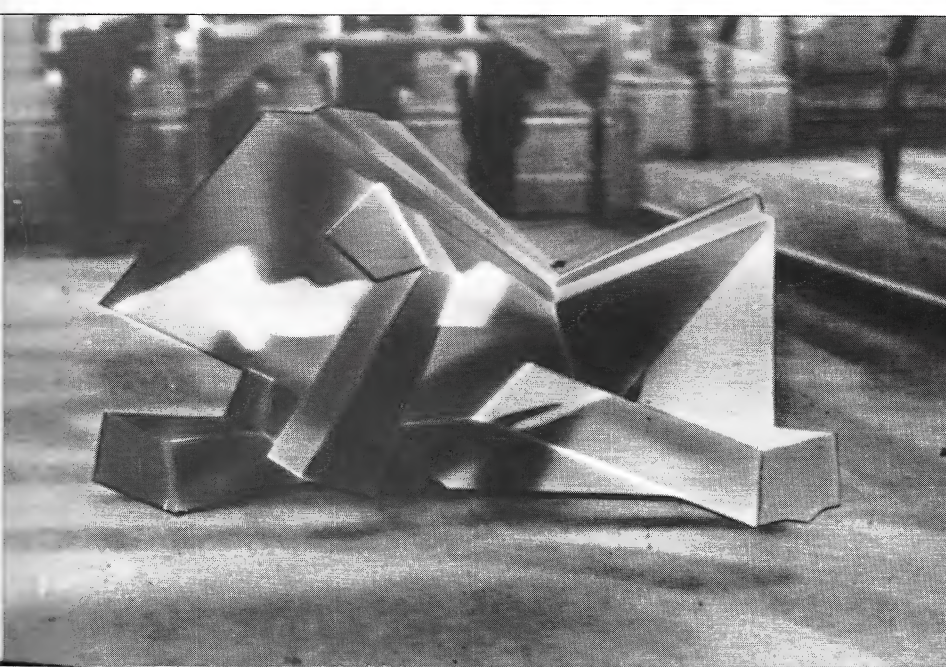
1946年1月20日モンタナ生まれ。ボストンとペンシルベニアの美術学校を卒業。AFI(AMERICAN FILM INSTITUTE)の資金援助で16ミリ〝The Grandmother〟を試作。5年がかりのモノクロ映画「イレイザー・ヘッド」がロサンゼルス映画祭で注目を集め、「エレファント・マン」でメジャー映画に進出した。この「エレファント・マン」が1980年のアカデミー賞最優秀監督賞をはじめ8部門にノミネートされ、華々しいデビューを飾った。











★フレディ・フランシス

〈撮影監督〉

FREDDIE FRANCIS

'60年「息子と愛人」でアカデミー賞撮影賞受賞、作品には「Time Withont Pito」「年上の女」「土曜の夜と日曜の朝」「Night Must Fall」㊟「フランス軍中尉の女」など。

監督としては、「テラー博士の恐怖」('64)「帰ってきたドラキュラ」「がいこつ」等の恐怖映画をとった。

★カルロ・ランバルディ

〈生物クリエイター〉

CARLO RAMBALDI

'76年の「キングコング」'79年の「エイリアン」'83年の「E.T.」の3回にわたってアカデミー賞視覚効果賞を受賞。作品に「バイブル」「アンディ・ウォーホールのドラキュラ」「アンディ・ウォーホールのフランケンシュタイン」「未知との遭遇」「ナイトウィング」等。

★アルバート・ホイットロック

〈特殊視覚効果〉

ALBERT WHITLOCK

'68年の「トブルク戦線」でアカデミー賞にノミネート。'75年の「大地震」'76年「ヒンデンブルグ」の2本でアカデミー賞特殊効果賞受賞。その他の作品に「引き裂かれたカーテン」「キャッチ22」「愚か者の船」「ダイヤモンドは永遠に」「メイム」等。

★キット・ウエスト

〈特殊技術効果〉

KIT WEST

'82年「レイダース／失われたアーク」でアカデミー賞視覚効果賞を受賞。「テレマークの要塞」「バルジ大作戦」「エル・コンドル」「エクウス」「ジェダイの復讐」など40作品以上の特殊効果を担当。

★TOTO

〈音楽〉

'82年のグラミー賞7部門を獲得したスーパーグループ。TOTOとウィーン交響楽団の作り出すサウンド（ブライアン・イーノ作曲・演奏の一曲）は、幻想的でそこには広大な宇宙があり、SF作品には最適である。









原作者■FRANK HERBERT フランク・ハーバート





フランク・ハーバートは1920年10月8日、米国ワシントン州タコマで生まれた。シアトルのワシントン大学に学んだのち、西海岸のいくつかの新聞の記者および編集員をつとめてから、専業作家に転じた。現在ワシントン州に住んでいる。

ハーバートがSFを発表しはじめたのは、1952年スタートリング誌の〝Looking for Something ?〟(「何かお探しですか？」)からである。つづく10年ほどの間、彼はSF雑誌にたまにしか寄稿せず、短篇の数も20にみたない（それでも、現在までの彼の短篇の大半をそれらが占める。長篇より短い分野では、彼は重要な作家ではない)。この時期には長篇「21世紀潜水艦」(〝The Dragon in the Sea〟）がある。未来の潜水艦内を舞台に複雑な心理探求を行なったSFスリラーで、高い評価を得ている。しかし、彼が巨匠として認められるのは、1963〜64年にアナログ誌に発表した《デューン》シリーズの第1部〝Dune World〟(「デューン・ワールド」)からである。この作品には続篇〝The Prophet of Dune〟(「デューンの予言者」)があり、1965年、この2作が合わさって「デューン　砂の惑星」(〝Dune〟)として発表された。本書は、アメリカSF作家協会の選出する第1回ネビュラ賞最優秀長篇部門を勝ちとり、ファンが投票によって選ぶヒューゴ賞も受賞して、あらゆるSF小説の中でももっとも有名な作品のひとつとなった。

「デューン 砂の惑星」は並はずれて複雑な小説である。そこには、明らかに封建的な性質をもつ銀河規模の政治や、サイ能力の発達、宗教、特に主人公ポールの状況に迫られての不可避的な救世主への進化、そして戦争などの要素がとりこまれている。しかし、まず衝撃を受けるのはこの作品のエコロジーの扱いであり、現代SFの読者、作家の関心の中心にそれを持ちこんだ点だ。巨大な砂虫とベドウィンのような住民フレーメンが、極端に不安定な生態学的適所に、気ちがいじみた細心さで水を保存しながらしがみついている砂漠の惑星アラキスは、おそらくSF作家によって生みだされた異星環境の中でも、もっとも説得力に富むものだろう。複雑で知的な語り口とビザンチン風の陰謀の混合（ときには衝突）によって、「デューン　砂の惑星」はハーバートのさらに重要な後期の作品の鋳型の役を果している。後に続篇が2作書かれた。「デューン　砂漠の救世主」(〝Dune Messiah〟）は、他の要素を犠牲にしてまで陰謀に焦点を合わせている。一方「デューン　砂漠の子供たち」(〝Children of Dune〟）では、原作品の力強い要素が再び見られ、またハーバートの作品によく見









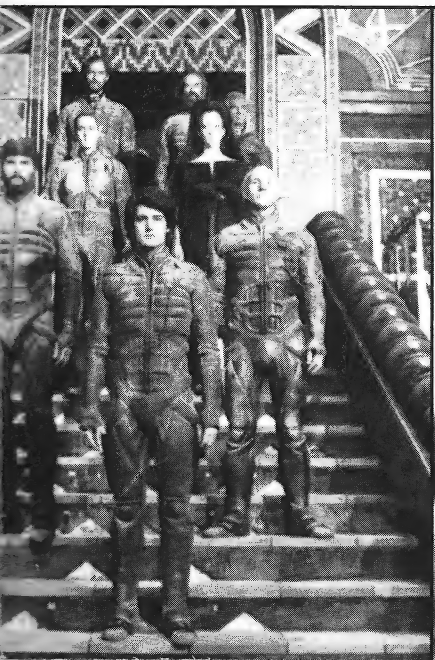
られるもうひとつのテーマも問いかけられる——人類の進化、この場合は超人への進化である。少なくともこのシリーズはあと１作が予定されている。

ハーバート作品の普遍的なテーマは、知性の発展である。しかも彼は一貫して、異なったあるいは進化した知性のタイプをいろいろと示そうとするのみならず、それらを詳細に描写しようとする。異星人の知性は「鞭うたれる星」(〝Whipping Star〞)で検証され、続篇「ドサディ実験星」(〝The Dosadi Experimeht〞)ではさらに執拗に追求される。この作品は、多層的な複雑さをもつプロットを編みあわせた上に、いくつかの異星種を詳細に描写し、極端な人口過剰の実験効果をさぐり、主人公とヒロインの完全な精神交換を含むサイ能力の進展を誘っているのだ。

ハーバートの他の長篇のひとつに、1973年発表の〝Hellstrom's Hive〞がある。この作品はおそらく、「デューン　砂の惑星」以来、ハーバートのいちばん成功した小説だろう。ここではミツバチの巣原理にのっとり、さまざまに特殊化した人間を選択育種している地下植民地の姿が、説得力をもって詳しく描かれる。こうした社会では、個人の存在は大した意味を持たない。機能する統一体としての巣の存続が最優先される。この小説は、本来の意味において成功したユートピア社会が、外側の人間の視点からではおぞましいものとしか見えぬ矛盾を指摘している。

ハーバートの作品の多くは読みやすいとはいえない。彼のアイデアは、充分に練り上げられたコンセプトであり、単なる装飾的思いつきではない。その上、ときどき過度に複雑なプロットがそれを物語る文章が、思考のレベルと一致しているとは言いかねるため、しばしば濃密で難解な印象を与える。しかし、彼の最良の長篇群は、現代SFでも批肩しうるものの少ない思弁的知性の産物である。ただその作品を批評、分析の対象にした作品は驚くほど少ない。

（早川書房「SFエンサイクロペディア」より）





PRODUCTION NOTE

プロダクションノート

＊撮影は、メキシコシティのキュルブスコ・スタジオとアメリカ国境近くのサマラユカ砂漠で行なわれた。当初、北アフリカ、イギリス、チュニジア、サハラ、インド、そしてイタリアが候補に上がったが、最大規模のスタジオと砂漠が近くにあるなど、結局メキシコに決定した。

アラキス(デューン)のシーンの撮影は苛酷を極めた。連日40℃を越える熱さの中で、「スティル・スーツ(ゴム製の、体の線にぴったりそったデザインのジャンプスーツ)」を着て激しいアクションで動き回る。砂漠の表面の岩、サボテン等は撮影のため一切排除されているため、照り返しは想像を絶するものだった。「7人のエキストラしか気絶しなかったのは、奇跡だった」とリンチは思い起こす。

＊「砂の惑星」には、いくつかの特別な生き物が登場する。「サンド・ウォーム(砂虫)」を作ったのは「エイリアン」「E.T.」などのモデル・メーカーとしてアカデミー賞を受賞したカルロ・ランバルディ。「サンド・ウォーム」の製作だけに1年の歳月、総額200万ドル(約4億8千万円)もの製作費をかけた。全長400メートル以上もある「サンド・ウォーム」の実物大のモデルを作るのは困難なので、ミニチュアと実物大の頭などの部分を組み合わせて撮影が行なわれた。

1体の「サンド・ウォーム」を作動させるには最低6人のオペレーターが必要で、全部で16体が作られた。

＊アラキスのロケ地になったラス・アグイラス・ロハスは、紀元前約3000年に火山の噴火でできた所で、いたるところギザギザした溶岩石や火山岩が露出し、火山灰に覆われた超現実的な雰囲気の場所である。

「惑星アラキスは、乾燥した星で砂と灰だけで成り立っている。だから撮影中は、できるだけ多くの灰が欲しかった。しかも、大量に」とリンチは言う。 ↗

そのため、3週間以上にわたる夜間の撮影のあいだ扇風機が回され続け、もともとあった火山灰に加えて何トンもの着色された白土を吹き飛ばしていた。この撮影中は、カメラにはプラスティックの保護カバーがつけられ、全スタッフはマスク、ゴーグル、ヘッド・カバーの着用が義務づけられたが、それでも耳、鼻腔、頭皮にしみわたり、台本には砂がたまって字が読めなくなるほどだったという。





＊「エクスカリバー」の衣裳デザイナー、ボブ・リングウッドによる衣裳も見どころのひとつだ。全部で1万着にも及ぶといわれるその衣裳の中でも、主人公たちがアラキスで着る「スティル・スーツ」は、実に個性的だ。

アラキスは非常に水分が少ないため、フレーメンたちは体から排出される水分を維持するためのぴったりしたスーツを着て、大きなポケットに蒸溜器をつける。歩くと水圧効果が生じ、かかとの小さなポンプがスーツの中に水を循環させ、浄化する。そして、口の近くから出たチューブを通して水分を口に含み、体の中に送る。

このスティル・スーツをデザインする上でリンチ監督は、いかにも宇宙服という感じのものや、どこかで見たことのあるコスチュームはダメ、という注文をつけた。そこでリングウッドは、解剖学の本からヒントを得て、筋肉をむき出しにしたようなデザインにした。実際にはこのゴムで作られたスーツは非常に暑く、フランセスカ・アニスはこのスーツを着て、半日で1.2キロも体重が減った、という。










《CAST》

The Emperor	JOSE FERROR
Reverend Mother Helen Mohiam	SIAN PHILLIP'S
Paul Atreides	KYLE MAcLACHLAN
Jessica	FRANCESCA ANNIS
Duke Leto	JURGEN PROCHNOW
Thufir Hawat	FREDDIE JONES
Dr. Yueh	DEAN STOCKWELL
Duncan	RICHARD JORDAN
The Baron	KENNETH McMILLAN
Feyd	STING
Stilgar	EVERETT McGILL
Dr. Kynes	MAX VON SYDOW
Chani	SEAN YOUNG
The Shadout Mapes	LINDA HUNT
Rabban	PAUL SMITH
Piter	BRAD DOURIF
Princess Irulan	VIRGINIA MADSEN
Alia	ALICIA ROANNE WITT
The Reverend Mother Ramallo	SILVANA MANGANO
Jamis	JUDD OMEN
Nefud	JACK NANCE
Gurney Halleck	DAVID STEWART
Harah	MOLLY WRYN

《キャスト》

シャッダム4世大王皇帝	ホセ・フェラー
ヘレン・モヒアム	サイアン・フィリップス
ポール・アトレイデス	カイル・マクラクラン
ジェシカ	フランセスカ・アニス
レト公爵	ユルゲン・プレフノフ
スフィル・ハワト	フレディ・ジョーンズ
ユエ博士	ディーン・ストックウェル
ダンカン	リチャード・ジョーダン
ハルコネン男爵	ケネス・マクミラン
フェイド	スティング
スティルガー	イベレット・マックギル
カインズ博士	マックス・フォン・シドー
チャニ	ショーン・ヤング
シャダウト・メイプス	リンダ・ハント
ラバン	ポール・スミス
ピーター	ブラッド・ダリフ
イルーラン姫	バージニア・マドセン
エイリア	アリシア・ロアンヌ・ウィット
ラマロ	シルバーナ・マンガーノ
ジャミス	ジャド・オーメン
ネフド	ジャック・ナンス
カーニー・ハレック	デビッド・スチュワート
ハラー	モリー・リン





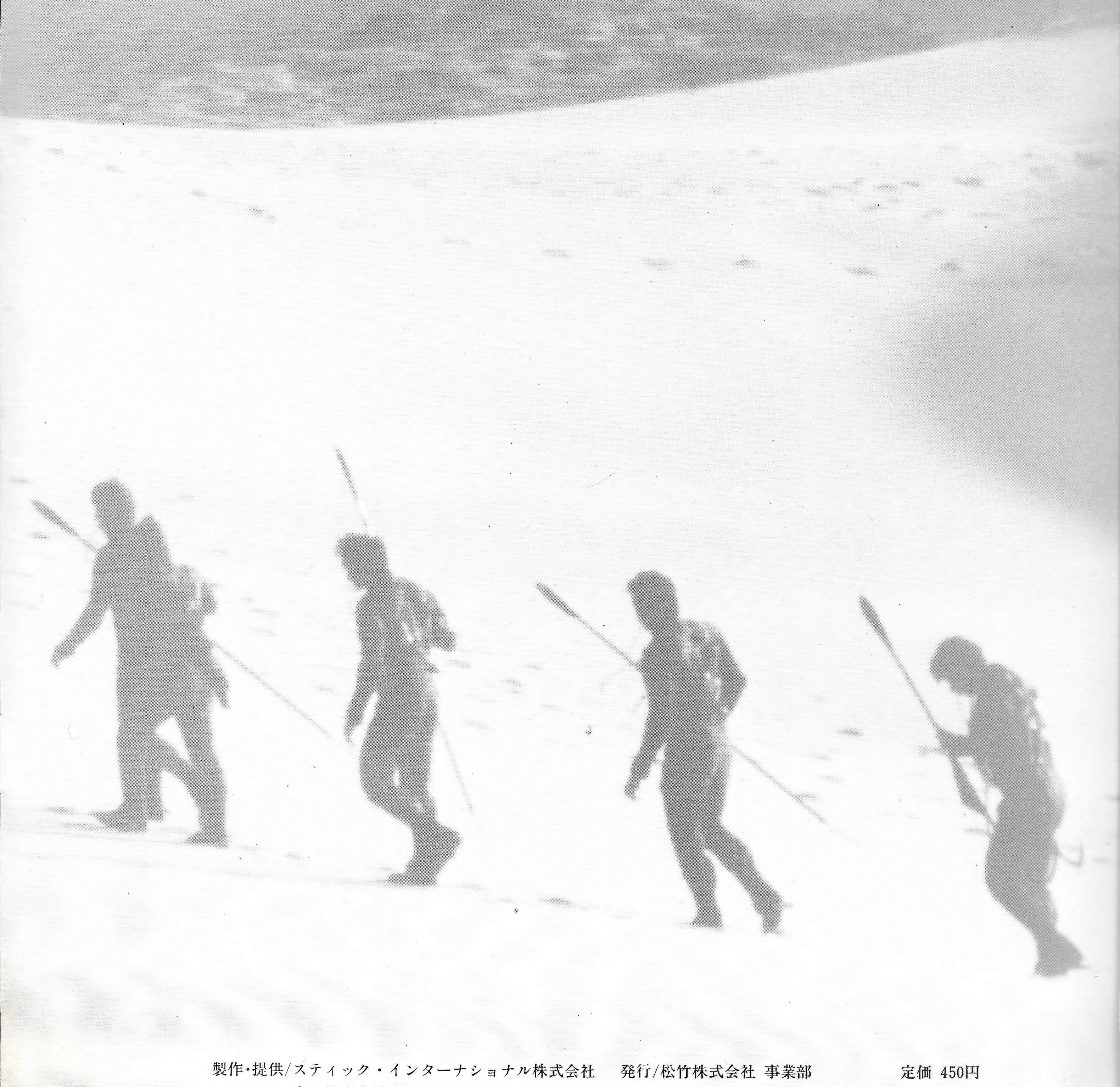


《STAFF》

DINO DE LAURENTIIS Presents
Produced by ……… RAFFAELLA DE LAURENTIIS
Directed by ……………………… DAVID LYNCH
Screenplay by ……………………… DAVID LYNCH
Based on the novel by ………… FRANK HERBERT
Director of Photography ……… FREDDIE FRANCIS
Supervising Editor by ……………… TONY GIBBS
Production Design by ………… TONY MASTERS
Costume Design by ……………… BOB RINGWOOD
Mechanical Special Effects by ………… KIT WEST
Additional Visual Special Effects by … ALBERT WHITLOCK
Creatures Created by ………… CARLO RAMBALDI
Music by ……………………… TOTO/BRIAN ENO

《スタッフ》

ディノ・デ・ラウレンティス　提供
製　作…………ラファエラ・デ・ラウレンティス
監　督…………………………デビッド・リンチ
脚　本…………………………デビッド・リンチ
原　作……………………フランク・ハーバート
撮　影……………………フレディ・フランシス
編　集…………………………トニー・ギブス
製作デザイン…………………トニー・マスターズ
衣裳デザイン…………………ボブ・リングウッド
特殊技術効果…………………キット・ウエスト
特殊視覚効果……………アルバート・ホイットロック
生物クリエイター………………カルロ・ランバルディ
音　楽……………TOTO／ブライアン・イーノ



製作・提供/スティック・インターナショナル株式会社　東京都中央区京橋3丁目9番9号　和ビル5F
発行/松竹株式会社 事業部　東京都中央区築地1丁目13番5号
定価 450円

DUNE™*

THE MOTION PICTURE EVENT FOR 1984

DINO DE LAURENTIIS Presents
A DAVID LYNCH Film "DUNE"
Screenplay by DAVID LYNCH Based on the novel by FRANK HERBERT Edited by ANTONY GIBBS
Mechanical Special Effects by KIT WEST Additional Visual Special Effects by ALBERT WHITLOCK Creatures Created by CARLO RAMBALDI Costume Design by BOB RINGWOOD
Production Design by ANTHONY MASTERS Director of Photography FREDDIE FRANCIS
Associate Producer JOSE LOPEZ RODERO Produced by RAFFAELLA DE LAURENTIIS Directed by DAVID LYNCH
A UNIVERSAL RELEASE READ THE BERKLEY BOOK

ユニヴァーサル映画 CIC配給

DOLBY STEREO™
IN SELECTED THEATRES